

熊本水害調査（第一報）

日時：平成 28 年 6 月 23 日

参加者：二瓶泰雄，学生 2 名（東京理科大学）

調査場所：緑川支川 木山川 18k 付近



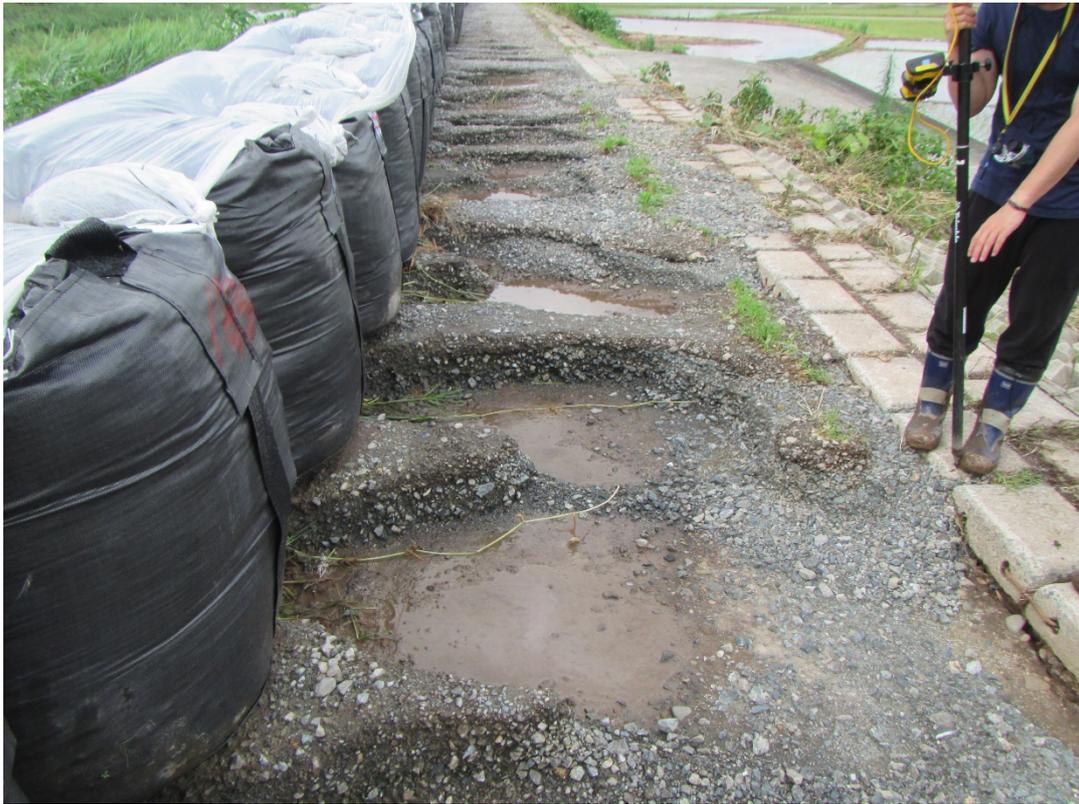
(1) Stn. 1 決壊箇所：五楽橋上流左岸側



決壊地点を対岸から撮影。決壊幅 60m 程度。地震後に土嚢が積まれていた。そのため、地震時に、本地点を含む木山川堤防天端も地盤沈下が発生した模様（詳細調査中）。



決壊箇所を下流側から見る（五楽橋より撮影）。洪水痕跡調査より、ピーク水位は天端高さを大きく超え、一部は土嚢高さを越えた模様（決壊地点で土嚢を超える水位があったかどうかは現在検証中）。



決壊箇所近くの天端では，土嚢周囲に洗掘痕あり．大きいもので深さ 20 cm 以上，長さ 1m 以上．
この洗掘により土嚢が不安定化し，越水を拡大させた可能性大．



決壊箇所そばにおける堤防天端への坂路．熊本地震時に大きな亀裂が発生．



決壊箇所を堤内地側から撮影。裏のり面には接続ブロックが敷設されていた。現在復旧工事中。

(2) Stn. 2 : 裏のり面崩壊



越流により裏のり面が侵食。

(3) Stn. 3 : 土嚢散乱



土嚢の上に痕跡あったため、土嚢を越流した模様。裏のり面の侵食小。

(4) Stn. 4 : 越流



土嚢上に痕跡あり。越流発生

(5) その他：地震後の沈下



五楽橋左岸側. 橋梁部と道路の段差が発生. 30-70 cm程度の沈下.

以上.